

カウントダウン プラネットC

Countdown for PLANET-C Venus orbiter

中村 正人 [1]; 金星探査グループ 今村 剛 [2]

Masato Nakamura[1]; Imamura Takeshi Venus Exploration Group[2]

[1] 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部; [2] -

[1] ISAS/JAXA; [2] -

<http://www.stp.isas.jaxa.jp/venus/>

金星探査機プラネットCは2010年夏に種子島射場からH-IIAにて打ち上げられ、同年12月初め、金星周回軌道に投入される。プラネットCは当初、金星気象探査ミッションとしてVenus Climate Orbiter (VCO)として知られていた。20世紀の事である。以来、この名称はプラネットCの実質を表す呼称として、今でも研究者の間で使われている。VCO。美しい響き。

日本として、目的は達せられずに終わったものの、火星に「のぞみ」(プラネットB)を送り込み、次なる目標は金星であろうと考えたのは自然な流れである。しかし、金星にはソビエト連邦(現ロシア)、アメリカ合衆国がすでに何機もの探査機を送り込み、さらに大きな科学的成果を上げる為には、日本としての独自の戦略を要した。その時研究者の脳裏に浮かんだのは、金星の風系である。未だに諸外国が手をつけておらず、また、非常に奇妙なもの。金星本体はほとんど自転していないにも関わらず、惑星を取り囲む分厚い大気のみが4地球日で回転している不思議。この謎を我々が解き明かしたいという熱意に支えられてミッション提案は始まった。

当時、宇宙科学研究所は独立した国立研究所としてその威信を保っていたが、その誇りとは裏腹にミッションを実現する為には様々な困難を抱えていた。しかし、その中であって、科学者の独創に基づく金星気象探査ミッションVCOは、宇宙科学の多くの研究者にその独自性を認められ、2001年1月の第一回宇宙科学シンポジウムにおいて皆の共感を得て、宇宙理学委員会の厳しい審査を通過して産声を上げたのである。

その後も多くの困難を宇宙航空研究機構の同志、また機構外の研究者の熱い気持ちに支えられたこのミッションは、世界で初めて惑星気象学を打ち立てるのだと言う一途な気持ちだけを頼りについここまでの道のりを踏み越えて来た。